

有限会社 モトヒロ

2022 年度版

環境経営レポート

M o t o h i r o



あらゆる建物の解体工事，少量からの産業廃棄物、一般廃棄物の
処理・収集・運搬ならモトヒロにおまかせください。

（対象期間：2022 年 6 月～2023 年 5 月）

作成日：2023 年 8 月 2 日

改定日：2024 年 2 月 20 日

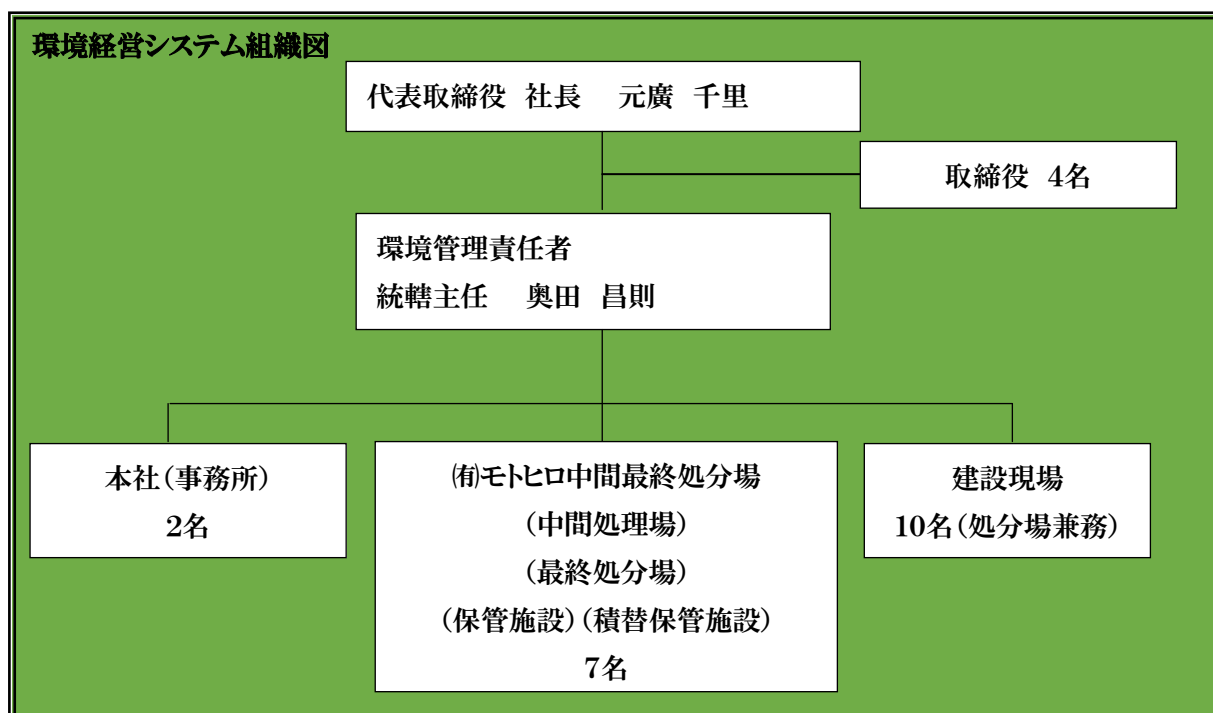
【 目 次 】

事 業 概 要	P1
エコアクション21組織図.....	P2
環 境 経 営 方 針	P2
環境保全への行動指針.....	P3
環 境 負 荷.....	P4
環境目標と実績.....	P4
環境活動の取組と評価.....	P5
環境に配慮した土木施工.....	P6
環境関連法規の遵守状況.....	P7
取得許可認可等一覧表.....	P7～8
工程図.....	P10～11
保有機械一覧表.....	P12
処理実績.....	P13～14
代表者による全体評価と見直しの結果.....	P15

【有限会社 モトヒロ 事業概要】

(1) 商号及び代表者氏名	
商 号	有限会社 モトヒロ
代表者氏名	代表取締役 元廣 千里
(2) 所在地	
《本社》	〒729-0141 広島県尾道市高須町東新涯4810番地5 TEL:0848-47-1614 FAX:0848-47-1615 e-mail : info@motohironet.jp
《(有)モトヒロ中間最終処分場》	〒722-0215 広島県尾道市美ノ郷町三成字小地獄252番地9(中間処理場) 252番地9(保管施設) 252番地8他3筆(最終処分場) 252番地15(積替保管施設) TEL:0848-48-2493
(3) 環境保全関係の責任者及び連絡先	
環境管理責任者氏名	奥田 昌則
連絡先 担当者氏名	TEL:0848-47-1614 奥田 昌則
(4) 事業内容	
業務内容	・産業廃棄物の収集運搬、中間処理、安定型最終処分 ・一般廃棄物の収集運搬、中間処理 ・建設発生土リサイクル ・解体工事、土木工事の施工
(5) 事業規模	
資本金	10,000,000 円
法人設立年月日	平成元年 8 月 1 日
売上高	308,892 千円 (2022 年度 R4.6～R5.5)
従業員数	15 人
(6) 対象範囲(認証、登録範囲)	全組織 全活動

【エコアクション21組織図】



	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施及び管理に必要な、人、設備、費用、時間、技術者を用意 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標の設定、環境活動計画書、法規制等の要求事項登録簿、環境経営レポートの承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境経営システムの構築
取締役	・上記代表者の役割全般を補佐
環境管理責任者	・環境経営システムの実施、管理 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境活動計画の実績集計 ・会社内部の意見、報告を受け是正策を代表者へ報告 ・計画書、各項目の目標達成手段の確認（各部門） ・各項目、チェックシートの取りまとめ ・環境経営レポートの作成 ・環境目標・環境活動計画書原案の作成 ・「環境関連法規等チェックリスト」の作成と見直しを実施 ・従業員に対する教育訓練の実施 ・特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト・訓練・記録
本社事務所	・外部とのコミュニケーション窓口 ・環境経営レポートの公開(事務所に備付けと地域事務局への送付) ・特定された項目の手順書作成及び運用管理
全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を認識する ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する ・現場レベルでの改善点を環境管理責任者に報告

【環境経営方針】

有限会社モトヒロは昭和24年に個人事業元廣組として尾道で産声をあげて以来、今日まで解体業、廃棄物処理・運搬業を主たる事業として営業してまいりました。

地元に密着し共に生きていくという企業理念の下、地域に最大限の貢献をしたいと考え数々の行事に参加して参りました。

当社では、地域における安全・安心を最大限に実現するため、廃棄物に係る一連の流れを全て自社で行うシステムを構築しております。

そしてこの度、地域における安全・安心を何かしらの形にしたいと思い続け、この度エコアクション21への取組みを決断致しました。

当社は、解体業、建設業、廃棄物処理事業（収集運搬・中間処理・最終処分）建設発生土リサイクルプラント事業を通じ、可及的な資源消費の抑制及び環境負荷の低減に努め、資源循環型社会の構築に貢献して参ります。



【環境保全への行動指針】

(1) 事業活動に関わる関係法令を遵守します。

(2) 具体的に次のことに取り組みます。

(全部門共通項目)

- ①当社の事業活動に関わる法令を遵守します。
- ②電気使用量を削減し二酸化炭素排出削減に努めます。
- ③廃棄物の削減に努めます。
- ④水使用量の削減に努めます。
- ⑤地域環境活動を積極的に取り組みます。

(解体部門)

- ①解体時に分別を徹底します。
- ②警備員の配置、看板の設置、適切な養生により施工現場周辺の安全を確保します。
- ③使用重機の適切なスロットルにより解体します。
- ④適切量の散水により解体します。
- ⑤該当物件の事前調査により、環境にやさしい解体をします。

(収集運搬部門)

- ①エコドライブを推進します。
- ②廃棄物の飛散防止に努めます。
- ③アイドリングストップを推進します。

(廃棄物の中間処理・最終処分・リサイクル部門)

- ①人の手による細かい分別を徹底します。
- ②廃棄物の事前点検により使用重機の長期寿命化に取り組みます。

(土木工事部門)

- ①再生材料を積極的に使用します。
- ②環境に配慮した施工をします。

(建設発生土リサイクル部門)

- ①異物選別除去を徹底します。

(4) 環境経営の継続的改善を誓約します。

(5) 環境への取り組みを環境活動レポートとして取りまとめ公表します。

制定日 平成 27 年 5 月 30 日

改訂日 令和 3 年 10 月 1 日

有限会社 モトヒロ

代表取締役 元廣 千里

【二酸化炭素排出量削減の目標と実績】

項 目	単位	基準年度 2014年度	2020 年度 (6%削減)	2021 年度 (7%削減)	2022 年度 (8%削減)	2023 年度 (9%削減)
目標	kg-CO ₂	224,360	210,898	208,654	206,411	204,167
実績	kg-CO ₂	224,360	230,632	182,795	185,383	

※購入電力の排出係数は日本テクノ(株)2021 年度実績 (0.485kg-CO₂/kWh) を用いた。

※建設現場単独での計測は困難であるため全体の数値を記載している。

【環境目標と実績】

年 度 目 標			2014 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
			基準年度	通年目標			
				実績			
電力使用量 の削減	(kwh)		118,734	111,610	110,422	109,235	108,047
				178,305	80,164	73,173	
化石燃料の 削減	(ℓ)	軽油	53,980	50,741	50,201	49,661	49,121
				45,183	48,755	51,075	
		ガソリン	8,771	8,245	8,157	8,070	7,981
				9,115	7,814	7,811	
水資源の削 減	(㎡)		662	622	615	609	609
				644	770	654	
受託した産 業廃棄物の リサイクル率 の向上	(%)	金属くず	90%	94	95	96	96
				97	97	92	
		紙くず	60%	64	65	66	66
				58	65	63	
		廃プラ	40%	54	55	46	46
				63	53	45	
		木くず	80%	84	85	86	86
				87	85	89	
		がれき類	80%	84	85	86	86
				89	85	88	
一般廃棄物 の削減	(k g)		151	148	144	144	144
				143	144	139	
環境に配慮す べき施工提案	(件)		1現場につき1件	50	70	79	
				50	70	79	
地域環境活動	(回)		年1回	1	1	1	1
				1	1	1	

【環境活動の取組計画と評価及び次年度の取組み】

取組み項目	達成状況	評価（結果と今後の方向）
電力使用量の削減 - 電力を動力とする重機の点検 - 不要照明の消灯 - 空運転の防止 - エアコン設定温度の徹底 - エアコンフィルターの掃除 - コンプレッサーエア漏れ点検	目標：109,235kwh 実績：73,173kwh 達成率：149%（目標/実績）	目標達成 ○ 前期と比較し売上も増加し、電気使用量も減少した。 今後も売上増加を図りつつ省エネを常に意識して行動するよう努める。
化石燃料の削減 - エコドライブ運動展開 - アイドリングストップ - 急加速の抑制 - 過積載の禁止 - 法定速度の遵守	目標：軽油 49,661ℓ ：ガソリン 8,070ℓ 合計 57,731ℓ 実績：軽油 51,075ℓ ：ガソリン 7,811ℓ 合計 58,886ℓ 合計達成率：98%（目標/実績）	目標達成 × 売上増加に伴い使用量も増加した。 原単位においては非常に良い結果となっており問題ない。 今後も重機・車輛運行者全員で具体的取組行動の再確認し、省エネに努める。
一般廃棄物の削減 - 裏紙の使用 - 両面印刷の推進 - 電子メールの活用 - ミスコピーの防止 - 分別の徹底	目標：144 kg 実績：139kg 率：103%（目標/実績）	目標達成 ○ 裏紙使用・両面印刷を意識し行動した。来期も具体的行動意識し、目標達成を目指す。
節水 - 解体時の適切量散水の徹底 - 節水運動 - 洗車回数の見直し - 水道故障箇所の調査	目標：615.7 m ³ 実績：654 m ³ 達成率：94%（目標/実績）	目標達成 × 解体現場の増加に伴い水使用量が増加した。 今後も適量散水を心がける。
受託した産業廃棄物のリサイクル率の向上 - 人の手による細かな分別の徹底 - リサイクル率向上エコ会議の開催	金属くず（目）96% （実）92%	目標達成 × 若干目標に届かなかったが問題ない範囲
	紙くず（目）66% （実）63%	目標達成 × 若干目標に届かなかったが問題ない範囲
	廃プラ（目）46% （実）45%	目標達成 × リサイクルできる状態にするにはあまりに手間がかかり現状では難しい。
	木くず（目）86% （実）89%	目標達成 ○ 達成できた。
	がれき類（目）86% （実）88%	目標達成 ○ 達成できた。
環境に配慮すべき施工提案 再生資源の積極的使用等	目標：79 件 実績：79 件 達成率：100%（目標/実績）	目標達成 ○ 現場作業員が 1 現場が始まるごとに順番で提案している。
地域環境活動 - 施工現場での作業終了時の清掃（随時） - ボランティア地域清掃活動	目標：年 2 件 実績：2 件 達成率：100%（目標/実績）	目標達成 ○ 毎年本社近隣の地域清掃活動に積極的に取り組んでいる。

【環境に配慮した施工】

尾道市立向島中央小学校解体工事



低騒音重機を使用し



環境に配慮しています



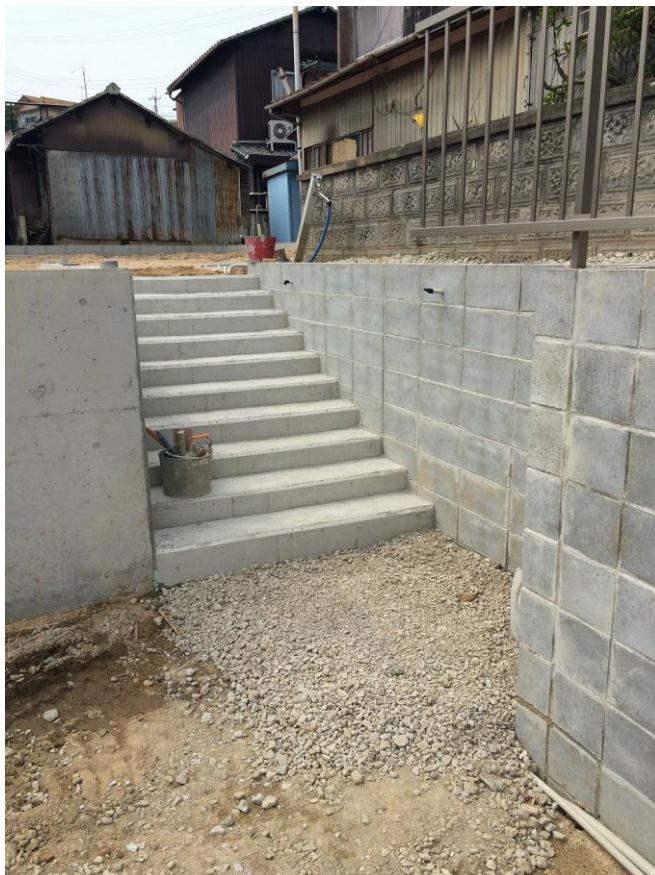
騒音測定用マイク



振動測定用センサー



振動、騒音を常時監視し近隣環境に配慮



N邸外構工事の様子

(有)モトヒロは解体工事のみならず、解体後の整地工事、造成工事、新築工事に伴う外構工事も行っております。このような工事には

- ①再生砂の使用
 - ②再生砕石の使用
 - ③振動・騒音、粉塵などの防止策による近隣に対する配慮
 - ④廃材をできるだけ排出しないように計画的な施工を行う
 - ⑤事前の綿密な打ち合わせ
- などを行うことにより、環境に配慮しながら施主様にも満足していただける工事を行っております。

【環境関連法規の遵守状況】

適用される法規制	該当する設備・項目
廃棄物処理法(廃掃法)	本社、(有)モトヒロ中間最終処分場、建設工事現場
振動規制法	(有)モトヒロ中間最終処分場、建設工事現場
騒音規制法	(有)モトヒロ中間最終処分場、建設工事現場
建設業法	本社(事務所)、建設工事現場
建設リサイクル法	本社(事務所)、建設工事現場
大気汚染防止法	(有)モトヒロ中間最終処分場、建設工事現場

※(環境関連法規制等報告)

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。
また、過去3年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。

【取得許可認可等一覧表】

産業廃棄物収集運搬業許可				
許可地域	許可番号	有効年月日		
広島県	第 03406014328 号	令和 6 年 2 月 7 日	～	令和 11 年 2 月 6 日
積替保管	全て小地獄 252-15			
更新中	廃プラスチック類(廃容器包装を含む)	面積 8.31 m ²	体積 8.31 m ³	高さ 1m
	廃プラスチック類	面積 9.21 m ²	体積 9.21 m ³	高さ 1m
	金属くず(廃容器包装を含む)	面積 8.95 m ²	体積 8.95 m ³	高さ 1m
	がれき類	面積 6.45 m ²	体積 6.45 m ³	高さ 1m
	木くず	面積 7.66 m ²	体積 7.66 m ³	高さ 1m
	ガラスくず(廃容器包装及び石綿含有廃棄物を含む)	面積 6.31 m ²	体積 6.31 m ³	高さ 1m
	ガラスくず(廃ブラウン管を含む)	面積 6.47 m ²	体積 6.47 m ³	高さ 1m
	紙くず	面積 6.31 m ²	体積 6.31 m ³	高さ 1m
	繊維くず	面積 6.31 m ²	体積 6.31 m ³	高さ 1m
	ガラスくず、金属くず(廃蛍光灯に限る)	面積 3.03 m ²	体積 3.03 m ³	高さ 1m
	廃油	面積 6 m ²	体積 3.21 m ³	容器保管
	ガラスくず(廃石膏に限る)	面積 6 m ²	体積 8.4 m ³	高さ 1.4m
	燃え殻	面積 12 m ²	体積 10.8 m ³	高さ 0.9m
	ばいじん	面積 12 m ²	体積 8.4 m ³	容器保管
	燃え殻、排油、廃プラ、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず、鉄さい、がれき類、ばいじん	面積 6.84 m ²	体積 8.2 m ³	容器保管
	金属くず	面積 6.84 m ²	体積 8.2 m ³	容器保管
	廃プラ	面積 4.29 m ²	体積 3.64 m ³	容器保管
	廃プラ、金属くず(廃プリント)	面積 4.29 m ²	体積 3.64 m ³	容器保管

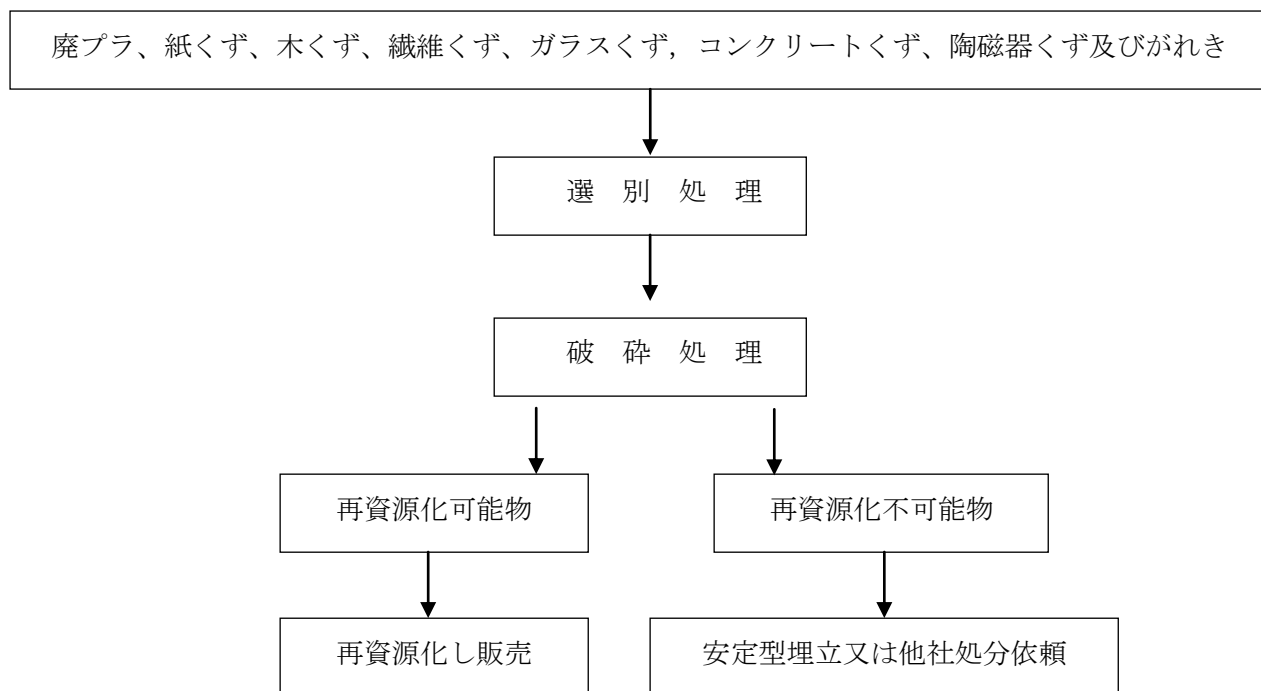
	配線板に限る)	
	鉋さい	面積 6.84 m ² 体積 8.2 m ³ 容器保管
島根県	第 03200014328 号	令和2年3月3日 ~ 令和7年3月2日
岡山県	第 03300014328 号	令和4年1月6日 ~ 令和9年1月5日
産業廃棄物処分業許可		
許可地域	許可番号	有効年月日
広島県	第 03446014328	令和 6 年 2 月 7 日 ~ 令和 11 年 2 月 6 日
更新中	施設の種類の	能力(日)・方式・面積・容量
	破砕施設	廃プラ(5.76t)、繊維くず・紙くず(6.24t)、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず・がれき類(80t)、がれき類(移動式 440t)、木くず(移動式 100t)
	最終処分場	埋立面積 10,515 m ² 埋立容量 58,298 m ³ 残量 17,284 m ³ (令和 4 年度末)
保管施設	木くず(小地獄 252-15)	面積 48 m ² 体積 48 m ³ 高さ 1.5m
	がれき類(小地獄 252-9)	面積 400 m ² 体積 400 m ³ 高さ 5m
	廃石膏ボード (小地獄 252-9)	面積 25 m ² 体積 30 m ³ 高さ 1.5m
	紙くず(小地獄 252-9)	面積 2.25 m ² 体積 3.37 m ³ 高さ 1.5m
	木くず(小地獄 252-9)	面積 80 m ² 体積 115.28 m ³ 高さ 2m
	廃プラ(小地獄 252-9)	面積 32 m ² 体積 24 m ³ 高さ 1m
	廃プラ、紙くず、繊維くず (小地獄 252-9)	面積 48.5 m ² 体積 58.2 m ³ 高さ 1.2m
一般廃棄物収集運搬業許可		
許可地域	許可番号	
尾道市	許可収第60号	
	固形状一般廃棄物	令和 5 年 4 月 1 日 ~ 令和 7 年 3 月 31 日
一般廃棄物処分業許可		
許可地域	許可番号	
尾道市	許可処第 6 号	
破砕処理	廃プラ、木くず、コンクリートくず	令和 5 年 4 月 1 日 ~ 令和 7 年 3 月 31 日
建設業許可		
許可地域	許可番号	有効年月日
広島県知事	(般)27-22816	令和 2 年 11 月 9 日 ~ 令和 7 年 11 月 8 日
種類	土木、とび・土工	
広島県知事	(般)27-22816	令和 2 年 11 月 20 日 ~ 令和 7 年 11 月 19 日
種類	石、鋼構造物、ほ装、しゅんせつ、塗装、水道施設	
広島県知事	(般)27-22816	令和 5 年 12 月 2 日 ~ 令和 8 年 12 月 1 日
種類	解体工事業	

※改定日現在の有効年月日を記載しております。

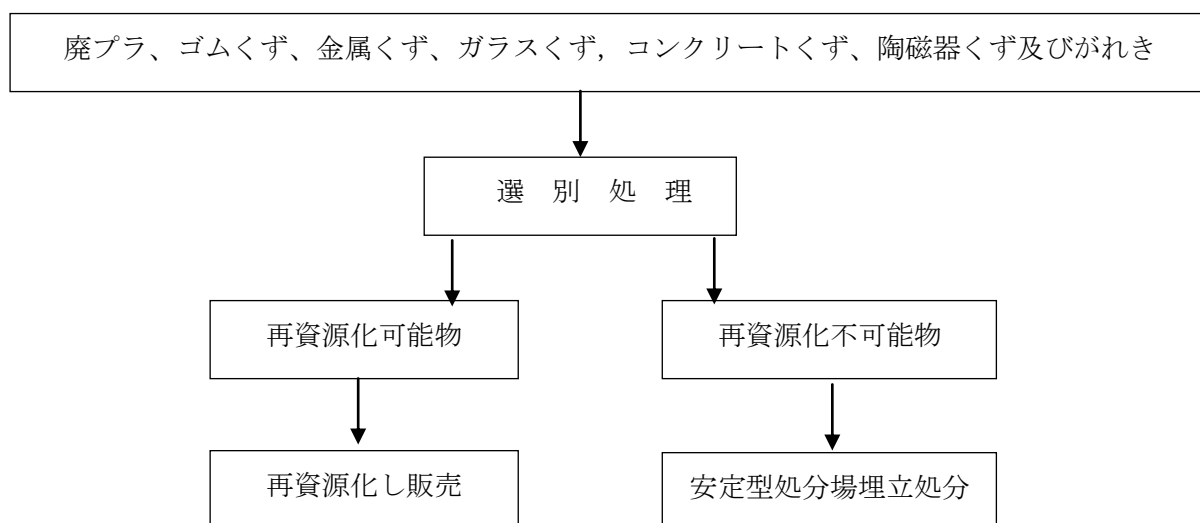
有する産業廃棄物収集運搬許可の種類																			
	種類																		
	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残渣	動物系固形不要物	ゴムくず	動物の糞尿・死体	金属くず	ガラスくず	コンクリートくず	陶磁器くず	鉱さい・がれき類	動物の糞尿
広島県		○		○	○					○	○	○	○						
広島県 (積替・保管)	○		○			○	○	○	○					○	○	○	○	○	
島根県						○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			
岡山県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

有する産業廃棄物処分許可の種類																	
	種類																
	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残渣	ゴムくず	金属くず	ガラスくず	コンクリートくず	陶磁器くず	鉱さい・がれき類	ばいじん
広島県						○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	

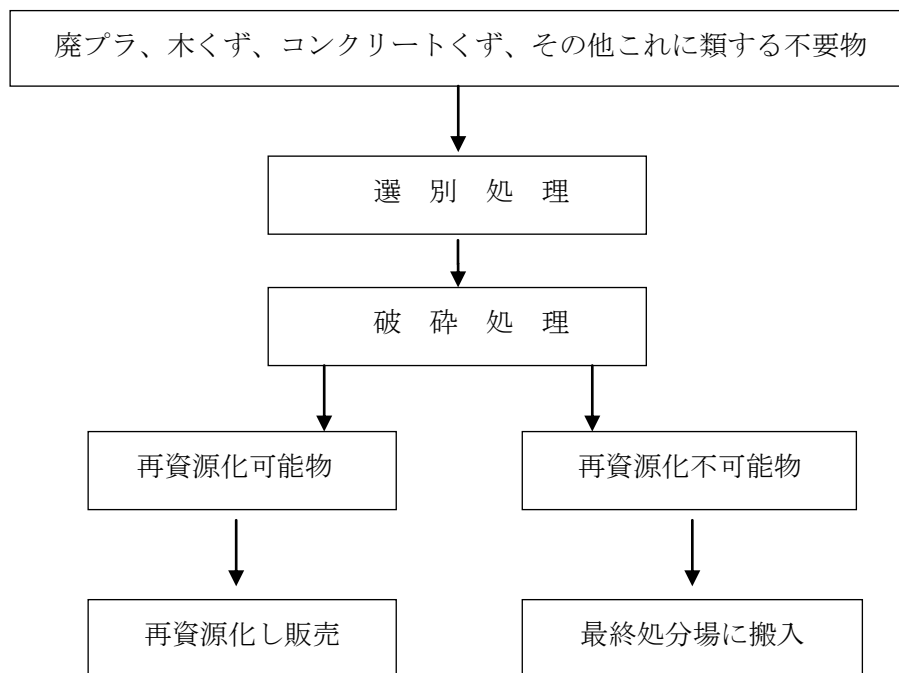
【産業廃棄物中間処理工程図】



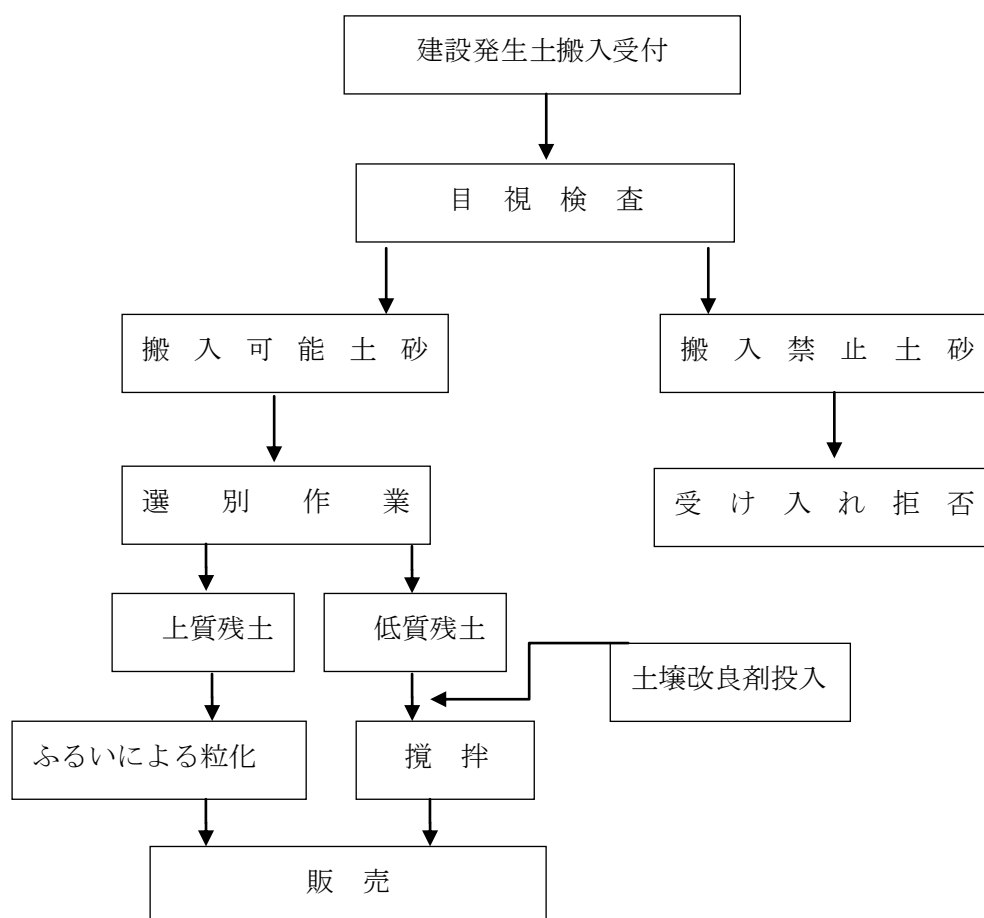
【産業廃棄物最終処分工程図】



【一般廃棄物処理工程図】



【建設発生土リサイクル工程図】



【保有機械・機器一覧表】

運搬車両/保有車両		
種類	積載量/内容	台数
ダンプカー	3,000 k g	1
ダンプカー	8,200 k g	1
ダンプカー	9,900 k g	1
ダンプカー	350 k g	3
ダンプカー	2,000 k g	1
ユニック	2,500 k g	1
キャブオーバ	11,100 k g	1
キャブオーバ	4,000 k g	1
コンテナ車	2,000 k g	2
コンテナ車	4,000 k g	1
コンテナ車	3,950 k g	1
コンテナ車	3,800 k g	1
その他機械類		
バックホー（大型）		11
破砕処理	ジョークラッシャー及びインパクトクラッシャー（80 t /日）	1
破砕施設	ディーゼルエンジン式（80 t /日）	1
破砕施設	45hp モーター二軸破砕式（5.76 t /日）	1
計量器	4 0 t	1

【処理実績】 2022 年度（R4 年 6 月～R5 年 5 月）

産業廃棄物収集運搬業(受託)

廃棄物の種類	
廃プラ	1 9 3, 5 7 0 k g
紙くず	1 4 0, 9 9 8 k g
木くず	3 9 0, 3 5 8 k g
繊維くず	8 9, 0 0 4 k g
金属くず	2 4, 0 8 7 k g
廃石膏ボード	1 5 0, 3 8 0 k g
がれき類	8 6 9, 2 7 4 k g
その他	2 9, 1 2 9 k g

産業廃棄物収集運搬業(自社)

廃棄物の種類	
廃プラ	9 5 3, 9 5 7 k g
紙くず	3 8 5, 4 7 5 k g
木くず	2, 0 3 8, 8 9 6 k g
繊維くず	2 8 5, 6 3 4 k g
金属くず	2 2 6, 9 7 5 k g
廃石膏ボード	1 5 4, 1 4 9 k g
がれき類	3, 8 9 0, 0 2 8 k g
その他	6 3 5, 8 7 4 k g

中間処理業(破碎)

廃棄物の種類	
がれき類	4, 7 5 9, 3 0 0 k g
廃プラスチック	1, 1 4 7, 5 2 0 k g
繊維くず	3 7 4, 6 3 0 k g
紙くず	5 2 6, 4 7 0 k g
木くず	2, 4 2 9, 2 5 0 k g
ガラスくず等	3 0 4, 5 2 0 k g

最終処分（埋立）

廃棄物の種類	
ガラスくず・陶磁器くず	2 2 9, 2 4 7 k g
がれき類	8 8 0, 6 0 3 k g

一般廃棄物収集運搬業

廃棄物の種類	
固形状一般廃棄物	57,040kg

一般廃棄物処分業

廃棄物の種類	
廃プラスチック類	3,165kg
木くず	4,290kg
コンクリートくず	実績なし

建設発生土処理量

建設発生土	
受け入れ量	450,157kg
残土処理量	214,590kg

産業廃棄物、一般廃棄物収集・処理料金

産業廃棄物収集運搬	別途お見積り
産業廃棄物処理	別途お見積り
一般廃棄物収集運搬	別途お見積り

(建設業工事实績)

直前3年の事業年度における工事件数及び工事施工金額			
事業年度	工事件数		総完成工事高(単位千円)
自 令和2年6月1日	とび・土工(解体)	50件	251,039
至 令和3年5月31日	土木、その他	0件	
自 令和3年6月1日	とび・土工(解体)	64件	135,558
至 令和4年5月31日	土木、その他	6件	
自 令和4年6月1日	解体	72件	196,252
至 令和5年5月31日	土木系、その他	7件	

【課題とチャンス】

わが社における課題は、若年の技術者不足と人手不足です。

産業廃棄物関連の業界はどこもそうですが、人手不足が激しく、なり手が少ないことが悩みです。解体の現場でもその傾向が強まっています。

そこでわが社では、特定技能の外国人を招聘し、活路を見出そうとしています。

元々技能実習で実習していたベトナム人が再来日し、現在現場で働いております。

今後もこの傾向は強まるでしょう。

そこでわが社では、職場の国際化を図り、グローバルに展開していくことを予定しています。

【代表者による全体評価と見直し・指示】

新型コロナウイルス禍もやっと終息し、通常業務以外での障害要因が取り除かれ、本業部分に注力できる環境になりました。

しかし日本全体の市場活力は未だ完全には回復しておらず、いわゆる単価競争が未だに続いております。

ただ、地方自治体の所有者不明空家や特定空家に対する対策の強化から、解体業務部門での売上が順調に伸びてきております。

しかし課題とチャンスでも書きましたように、人材不足が響き、複数の現場の受注に困難をきたしております。

どうすればいいのか分からない状況ですが、わが社でやれること、例えば待遇改善すなわち、休日の充実や労働時間の短縮化をアピールすることなどで、魅力的な職場づくりに注力しております。

また労災事故にだけは注意をし、作業員の安全はもとより、近隣に被害が出ないように十分な注意を払っております。

事故を起こすことが最も社会的コストにとって悪影響であると考えますので、この点だけは最重点項目として、全ての従業員に徹底しております。

昨年度に引き続き、エコアクションの理念を実現していきたいと考えております。

令和6年2月20日
有限会社 モトヒロ
代表取締役 元廣千里